

全校で地域を盛り上げよう 「砂丘桃PR作戦」



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
刈羽村立 刈羽小学校	刈羽村学校運営協議会 平成26年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 1名 0名 地域コーディネーター 0名 0名	刈羽村地域学校協働本部
刈羽村立 刈羽中学校	刈羽村学校運営協議会 平成26年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 1名 0名 地域コーディネーター 0名 0名	刈羽村地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

刈羽村は、広大で豊かな自然が自慢の人口約4,300人の村であり、砂丘を利用した桃作り(砂丘桃)は、明治から続く特産品である。この砂丘桃は、小学校3年生の社会科で学習し、子どもたちにも村民にも特産品としての認知度は高い。しかし、生産者の高齢化や手間などから生産量の減少が激しい。村では、桃を意識した複合施設や巡回バスなどアピールを図っているが、近隣市町村や全県での認知度は低い。このことを課題と感じてきた村の産業政策課から学校運営協議会で地域学校協働活動の取組として、砂丘桃PR作戦の提案があった。

目標や目指す姿(学校)

地域を愛し、地域に貢献できる児童生徒の育成

目標や目指す姿(地域)

特産品「砂丘桃」の認知度を上げ、
継続的に受け継がれていくこと



特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

協議会のメンバーである刈羽村産業政策課長から、刈羽の特産である「砂丘桃」について、児童が関われる活動内容の提案があった。協議会メンバーで精査し、いつ、どこで、誰がどのように関わるかを明確にして、総合的な学習の時間に「砂丘桃」に関する取組がどの学年にも関連して及ぶようにした。



R4 第1回学校運営協議会

地域学校協働活動

2年生が地域の農業組合の協力で桃の苗木を植えた。3年生は農業組合長から砂丘桃の歴史の話を聞いた。4年生は摘果、袋がけをした。5年生は収穫体験をした。6年生は桃をPRするメッセージカードを製作し、配送に携わる地元郵便局、生産者に贈呈した。



6年生によるメッセージカード贈呈

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校運営協議会では、刈羽村産業政策課からの「砂丘桃」に関する取組の提案を受けて、学校のニーズや対応できる地域人材、施設の洗い出しをした。校長が学校運営協議会のメンバーとなっていることから、会議後は内容を理解している校長が産業政策課や関係団体と学校との橋渡し役となった。学校では、発達段階に配慮しながら各学年部で具体的な関わり方を考えた。地域学校協働活動推進員は、担任とボランティア・施設と日程調整を図り、実際の活動につなげることで、教職員の負担が増えないように配慮した。

成果・効果

【成果・効果】

◆今までは「砂丘桃」との関わりは、もっぱら3年生の社会の学習で地域学習の一つとして行われていた。今回の提案で、各学年が「砂丘桃」と関われる活動を学校全体で系統的・横断的に授業に取り入れたことで、地域課題の解決に向けて当事者意識をもって取り組むことができ、更に地域学校協働活動を支えているボランティアと主体的に交流する機会をもつことができた。
◆6年生のメッセージカードの取組では、カードにQRコードを載せ、「砂丘桃」を送った(送られた)人からのアンケートを実施した。「おいしかった」というコメント以外にも、「例年、知人が地域の特産物を送ってくるので、私は刈羽の桃を送りました」というコメントがあった。地域の良さを知ってもらう1つの活動として、6年生の学習を支える機会となった。

【課題】

◆中学校には、砂丘桃を使ったレシピの考案や、桃をPRする動画づくり、農家への職場体験など、アイデアを提案している段階である。拡大学校運営協議会で刈羽村を盛り上げたいという気持ちを地域の方々と共有しており、思いは一つになっている。これから具体的な活動につなげて、小・中学生の発達段階に沿った長い期間「砂丘桃」に関わる取組を構築したい。